

新発田市 令和5年度 第8回定例記者会見

1 日 時 令和5年11月2日(木)午後2時30分～

2 場 所 ヨリネスしばた501会議室

3 内 容

【市長発表項目】

○「新発田の美味しいお米コンテスト2023」最終審査会の開催

市の基幹産業である農業、とりわけ稲作の振興を図り、新発田産米ブランド化の一環として実施しているコンテストについて PR したい。

○ハワイでのオーガニック米トップセールスについて

物のアウトバウンドとして、また、オーガニック SHIBATA プロジェクトの肝となるコメの海外輸出への取組について周知したい。

○キルギス共和国大使の当市訪問について

世界各地で紛争や戦争が止まない現代においても、たった一人の行動が国家間を結ぶ平和交流につながったという偉業を PR したい。

○しばた創業塾 2023 in 蔵春閣

「進一層」の精神を持つ大倉喜八郎の別邸蔵春閣で開催する、未来の創業者を育てる取組について周知したい。

○健康長寿アクティブシニア推進事業 ものづくり体験について

高齢者の社会参加や生きがいづくりの機会提供と、学生と高齢者の世代間交流を図る取組について PR したい。

【その他】

○加治川地域と市街地を結ぶ「かじかわ路線」の運行開始

○第24回全国「花嫁人形」合唱コンクール

○新発田市人権啓発講座「ケーキの切れない非行少年たち」開催

○雑煮合戦収穫祭 with 蔵春閣

○令和5年度新発田市所蔵美術作品展

「眼福ここにあり SHIBATA・美のクリエイション」

○蓑谷虹児記念館企画展 菅野由貴子ワンダーランド

あいさつ

○ソウル新潟空港便が運航を再開するということで、来春のインバウンドに向けて、ゴルフ三昧プランの再構築に向けた営業に韓国のエージェンツを回ってきました。その成果として、本日7社来ていただき、新発田の観光地やゴルフ場を視察し、私のところに挨拶に来ました。コロナ禍前に約1万人のインバウンドがあったと記憶しておりますが、その一番大きな原動力になったのは、韓国・台湾・香港ということであります。台湾は現在も就航していますので、来ていただいておりますが、今度こそ韓国の皆さんが来ていただくと非常に大きな力になるなと思っていますところであります。

○それから、タイからもエージェンツの皆さんに来ていただきました。今年タイで新発田牛のPRをさせていただきました。花角知事がベトナムとタイからの新潟空港乗り入れについて営業されたと聞いておりますので、ベトナムにも行ってまいりましたが、ベトナムは1便だけ来て終わりということだそうです。タイは台湾経由で新潟入りをするという情報がありましたので、新発田へおいでいただきたいと、旅行社にトップセールスをさせていただきました。その中の1社が今回新発田に来られました。来年の4月から、タイから羽田空港に行き、羽田から月岡温泉に来て、宿泊し、福島に行くのだろうと思います。福島から栃木に行き、東京へ行って、羽田から帰るという周遊の一つに新発田が入ったということでもあります。いよいよコロナが終わって、インバウンドに向けて頑張らなければいけないと改めて思っております。

それでは、会見項目を説明いたします。

最初に、新発田の美味しいお米コンテスト最終審査会の開催についてです。

○当市の基幹産業である農業、そして新発田の食を支えていただいている生産者の努力をたたえようという趣旨で、平成27年から始まり今年で9回目となります。

○今年は、農業者の皆様にとっては、渇水と高温対策に大変悩まされた年となりました。この影響により、9月25日現在の新潟県全体の作況指数は95のやや不良となっており、北越後農業協同組合管内にける一等米比率も17パーセント、コシヒカリにあっては2.9パーセントという過去最低の水準となっております。近年は、肥料をはじめとした資材の高騰などの影響もあり、農業経営は大変厳しい状況にあると思っております。

○このような中でも、生産者の皆様にあつては、美味しいお米作りに意欲的に取り組んでいただき、今回のコンテストに参加いただきました。この努力に報いるため、上位入賞者への特典として、当市独自の開拓によって手にした海外市場での販売や、ふるさと納税返礼品としての提供、災害協定を結ぶ神奈川県海老名市の学校給食への提供などの機会を用意しております。なお、米の輸出量は、平成29年産の25トンから始まり、令和4年産で306トンまで増加し、令和5年産についても315トンの輸出を予定しています。今後も、取扱店舗の新規開拓など輸出量の拡大を図り、農業所得の向上を目指してまいります。

○最終審査は、11月9日（木）に月岡温泉で行います。85件のエントリーの中から既に実施した測定機器による一次審査、二次審査を通過した上位10点について、審査員による試食を行い、金賞・銀賞・銅賞米を決定いたします。報道関係の皆様にも試食をしていただくことにしておりますので、ぜひ新発田の米のおいしさを実際に味わっていただきたいと思います。

○なお、「オーガニック新発田プロジェクト」で取り組んでいる有機米については、取組者が令和4年度から2法人増えて5法人、作付面積も2.8ヘクタール増え、8.4ヘクタールとなっております。今後の更なる拡大を後押しするため、コンテスト終了後には、有機米栽培に関する研修会も予定しております。報道関係の皆様には、こちらも取材いただければ幸いです。

○今日は皆さんにも、この大地の恵みをお裾分けしたいと思います。私も試食いたしましたが、安全性はもちろんのこと、味も十分に太鼓判を押せるものと自負しております。こちらのお米もぜひ味わっていただきたいと思います。

次に、ハワイでのオーガニック米トップセールスについてです。

○昨年立ち上げた「オーガニック SHIBATA プロジェクト」により、オーガニック米の生産拡大に努めてまいりましたが、満を持してハワイへの輸出を開始します。この秋に収穫されたオーガニック米のうち、12tをハワイへ輸出する計画であります。

○ホノルルの現地では、オーガニック米を使用したおにぎり専門店、^{なな}「七むすび」での取扱いが決定しており、今月下旬頃からは、遠く離れたハワイでも新発田産米のおにぎりを食べられます。

○近年、海外での需要が高まっているオーガニック米は高値で取引され、輸出事業者には、通常のコシヒカリよりも2倍以上の値段で買い取っていただきますので、農家所得の向上につながるものとして期待をしているところであります。

○また、現地販売での PR 及び消費喚起策として、新発田産コシヒカリを原料の一部とするビールの製造にも取り組んでおり、発売されているビール名は、その名も「SHIBATA」であります。遠く離れたハワイの地で、新発田産米のおにぎりを片手に「SHIBATA」ビールを飲む。こんなことを誰が予想できたでしょうか。これはすごいことです。

○人口減少などによる国内の需要低下、コロナ禍による外食産業の需要低下といった農業のピンチを乗り越えるために発想をチェンジさせ、オーガニックしばたプロジェクトを開始したこと、これが新たなチャンスを生み出してくれたものと思っています。

○現在は世界6都市へ新発田産米が輸出されております。世界の中心でもあるニューヨークでも新発田産米が食べられており、輸出量も好調であります。このことは生産者のモチベーションの向上につながりますし、自分たちが作ったお米は世界でも通用するんだと自信を持って、更においしい米づくりに取り組んでいただきたいと思います。

○今年 2 月のベトナムへトップセールスの際は、NST さんに帯同いただき、広く県民の皆様に周知もでき、現地でも営業活動に良い効果がありました。ハワイでも更なる販路の拡大に貢献できるよう、オーガニック米の生産者とともに、熱い想いと、お米のおいしさを現地の方々に伝えてまいりますので、一緒に、現地へ取材に来ていただけませんか。ぜひお願いいたします。

次に、キルギス共和国大使の当市訪問についてです。

- 日本から遥か離れた中央アジア「キルギス」の人口800人ほどの小さな村「タムガ村」、ここに第二次大戦終戦直後、新発田出身の日本兵宮野^{やすし}泰さんはソ連軍の捕虜として600日もの間、収容されていました。
- 厳しい環境下で強制労働に従事する中、宮野さんの勤勉で実直な姿が高く評価され、昭和23年に抑留から解放され帰国した後も、国の垣根を超え、現地住民との交流が続いています。
- 宮野さんは残念ながら、令和元年にお亡くなりになりましたが、キルギス共和国と新発田市を結び、平和の架け橋となった宮野泰さんを称え、このたび、キルギス共和国のオソエフ・エルキンベク全権特命大使が宮野さんのご子息を表敬訪問することになりました。
- 新発田市でも、宮野さんが繋いでくれたご縁を大切に、高度人材の受け入れや、文化、教育などの様々な分野でキルギス共和国との交流を深めてまいりたいと思います。
- 世界に目をやると、残念ながら、未だ地球上のあちこちで紛争が絶えません。しかし、「人とは過ちを犯す生き物であるけれど、過ちを改めることができるのも、また人である」と信じています。
- 悲惨な戦争体験を乗り越え、平和で心豊かな交流を築いた宮野泰さんを称え、今後もキルギス共和国との友好関係をしっかりと未来へ引き継いでまいりたいと考えております。

次に、「しばた創業塾 2023 in 蔵春閣」についてです。

- 新発田市内での開業率を引き上げ、市内の民間活力の向上を図るため、新発田商工会議所及び市内3商工会と連携し「しばた創業塾」を実施しています。
- 中小企業診断士が講師となり、経営知識や創業計画書の作成から経営戦略に至るまで、創業に必要な実践的な知識を習得した上で開業してもらうことで、市内の創業促進と事業継続につなげることが創業塾の目的であります。
- 今年の創業塾は9月21日から始まり、全10回に渡り、創業を志す15名の塾生が参加しておりますが、11月29日(水)の最終日には、当市出身の偉大な実業家「大倉喜八郎」が建設した蔵春閣で開催し、これまで作成した創業計画書の発表を行います。
- 大倉喜八郎翁が「困難に出会ってもひるまずに、なお一層、前に進む」という「進一層」の気概を持つことを求めたように、夢に向かって創業を志す方が、前に進めるよう、創業者支援による地域経済の活性化や雇用創出を図って参りたいと考えております。

最後に、健康長寿アクティブシニア推進事業 ものづくり体験についてです。

- 当市では、他市に先駆けて、様々な介護予防事業などに取り組んでおりますが、その成果として、当市の認定率は令和2年から減少傾向にあるほか、全国平均、県平均を下回っております。
- 更なる取組を進めるため、高齢者の社会参加や認知症予防、学生と高齢者の世代間交流を目的として、昨年度から e スポーツ体験や、農業・園芸体験などの事業に取り組んでおり、それぞれ敬和学園大学、新発田農業高校と連携しながら進めているところであります。
- 2年目となる今年度は、実施会場に敬和学園大学、新発田農業高校の校舎も加え、大勢の方に参加いただけるよう様々な工夫をしながら実施しております。敬和学園大学の教室で実施した e スポーツ体験では、参加者は普段は立ち入ることのない大学の空気に触れ、「大勢の若者と交流できて若返った。」など、高い評価をいただいたところであります。
- この事業はこれからも継続し、高齢者の社会参加や認知症予防、学生と高齢者の世代間交流を図り、健康長寿のまち新発田を市民一丸となって推進していきたいと考えております。
- 今後の予定であります。昨年はコロナの影響で立ち入りが制限された新発田農業高校を会場に、農業・園芸体験で栽培した野菜の収穫と、「ものづくり体験」を予定しております。「ものづくり体験」では、農高生が講師となり、「フラワーアレンジメント製作」、「お菓子づくり」、「しめ縄かざりづくり」を行いますので、学校内での高齢者と学生との交流の様子をご覧いただけるものと考えております。

本日お知らせする情報は以上になりますが、他にもお配りした資料のとおりイベントなどを予定しております。

報道各社の皆様におかれましては、一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市をご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。